

明治大学校友会豊島区地域支部会報

豊島支部 NEWS

<http://toshima.meiji-shikon.net/>
フェイスブックもチェック!!

2012年 新春 第39号

新年あいさつ

支部長 三浦昭生

新年明けましておめでとうございます。

昨年、2011年は3月11日の東日本大震災に始まり、8月から9月に懸けては台風の影響で日本列島はまたまた大被害を受けてしまいました。

また、東京電力・福島第一原子力発電所放射能漏れ事故の影響で各地にその被害が及んでおり、年が明けても収束する気配は見えません。

自然の猛威と人類が創り出した放射能で我々が苦しみもがいている現状は日本国民として今一度、一人一人正面からこの二つの命題に取り組み次世代及び後世の国民に日本人に生まれて本当に良かったと思える日本国を目指したいと思います。

さて本年の干支は辰年です。是非、昨年起きた様々な不幸な出来事を昇竜の勢いで振り払い、国民生活が安寧・安泰である社会を実現出来ますよう我々豊島区地域支部一同微力では有りますが「内なる心の怒りを勇猛心」に変えて共に頑張っていきたいと思えます。

結びにあたり、校友と御家族様の益々のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ年頭の挨拶と致します。

平成23年度 支部総会開催される

平成23年度豊島区地域支部総会・シンポジウム・懇親会が、11月5日(土)池袋の豊島区上池袋コミュニティセンターで開催されました。

当日は84名の校友・来賓の御出席を賜り誠に有難うございました。

総会では事業・決算報告、次年度事業の計画と予算が承認されました。

事業では3月11日の東日本大震災の義捐金募集を目指し、「池袋えんがわ市」のフリーマーケットに5〜7月、9〜10月の5回の出店で60名の校友の御参加を頂き義捐金48078円を豊島区経由で被災地の皆様にお届けする事が出来、参加して頂きました皆様に



感謝致します。

また、特別企画として我が明治大学校友会向殿会長にパネラーとして参加頂きましたシンポジウム『東日本大震災と明治魂』では震災当日の各自の姿を思い出させ、その後の大震災について如何にあるべきかを問う直す良い機会となったのではないのでしょうか？

続く懇親会では、美味しい料理とお酒に酔いしれながら、村形絵里さんの歌に始まり明治大学応援団・バトンチアリーディング部のパフォーマンスで盛り上がり、しばし学生時代の気分を存分に味わうことが出来ました。

最後は、参加者全員で肩を組んでの校歌の大合唱でお開きとなりました。

お店紹介

豊島区内でご商売をいらつしやる校友を紹介するコーナーです。



昭和55年卒 **三木 寛司**さん

今回取材させていただいたのは、の『三木酒店』三代目ご当主、三木寛司さんです。

三木さんは、昭和55年文学部のご卒業。付属明治高校時代は、山岳部に所属されたアウトドア派ですが、現在は仕事が忙しく趣味のフライフィッシングもお休みがちとか。

お店はJ Rと地下鉄南北線の駒込駅より徒歩10分「染井銀座商店街」のほぼ中央、創業大正13年の老舗です。

店内に入つてまず目に入るのが写真(右)の「純米吟醸酒・桜の里染井」



の原酒樽！ 四合ビン1000本分の巨大な『サマルタンク』は、蔵元と同じ環境で原酒が貯蔵されています。蔵元見学でしか飲むことが出来なかった杜氏専用の秘蔵酒がここ駒込で味わえます。(試飲も出来ますよ！) また清酒以外にも豊富な品揃えのワイン。気軽に飲める『普段飲み』からフランスの格付シャトーまで、選び抜いたこだわりの銘柄がところ狭しと並んでいます。和食に合う国産の白ワインが店長イチオシ。お酒の美味しい季節、パーティーや家飲みには是非！

取材：文・島倉仁志

有限会社 三木酒店
豊島区駒込3-29-7 TEL.03-3918-5383
営業時間：午前10時～午後11時
定休日：水曜日



行事予定

『新年賀詞交歓会』

日時：平成24年2月18日(土)

18時～

場所：地球飯店

豊島区西池袋1-22-8

『暑気払い』

日時：平成24年8月4日(土)

18時～

場所：ホテル第一イン

豊島区東池袋1-42-8

『平成24年度総会・懇親会』

日時：平成24年11月10日(土)

18時～

場所：豊島区勤労福祉会館

豊島区西池袋2-37-4



昭和45年商学部卒
増田 治美

移つてから英会話同好会に入部、3年の時の大学祭では英会話喫茶を開き、提出用との二重帳簿を作り昭和43年当時で8万円の収益を上げ、心配する4年生をキャバレーに連れて行き、一晩で使い切つたのを鮮明に覚えている。勉強の記憶は無い。麻雀、パチンコ、ボーリング、ビリヤードに明け暮れた。



Dr. Shiro Kuroki is a smiling man with glasses, wearing a light blue suit jacket, a white shirt, and a patterned tie. He is positioned in front of a dark wood-paneled wall.

増田治美(64歳)	昭和45年	3月	明治大学商学部商学科卒業 松下電器産業株式会社入社 松下通信工業株式会社東京営業所配属
平成12年	6月	同社	情報システム事業部取締役
平成13年	6月	同社	システムソリューションカンパニー一社長
平成14年	6月	同社	常務取締役営業本部長
平成16年	4月	同社	エンジニアークス・サポート株式会社設立 (松下電器・三菱電機・日本電気出資)代表取締役専務
平成18年	6月	同社	代表取締役社長
平成21年	6月	同社	取締役社長
現在に至る			

松下（現・パナソニック）には毎年、明治大学卒業生が数人入社していたが、私の部下にも明治大学卒が多かった。

標に向かつての情熱、エネルギーはおおいにあった。つまり、考えるより2、3日徹夜してもへこたれない体力勝負に猛っていたように思う。私の部署に配属される新入社員は他大学卒業生をも含めて、そんな人間が多かった。頭と上半身は前へ前へと行くが、足がついてゆけない。足腰を鍛える必要がある。学問では歯がたたないので、私の部署では人間学、人物を磨く訓練を長い間続けた。読書、勉強会、論語勉強会等、書生じみた事を行い、今考えると部下達には迷惑をかけた。

組織の中で仕事をする時、特にリ

右上、右下:奥様とのツーショット写真。
左:ゴルフ仲間との写真。

右上、右下:奥様とのツーショット写真。
左:ゴルフ仲間との写真。

三毒・何でも欲しがる(貪(トン)」、すぐ怒る(瞋(ジン)」、不平不満を言う(痴(チ)」。そう言う三毒をなくすためには、自戒、精進等があるが難しい。すぐにでも出来ることがある。布施である。しかもお金が無くても出来る八つの布施がある。「無財八施」である。

- 明るく和かな表情で人に接する和顔施
- 愛情に満ちた表情の慈眼施
- 見て見ぬふりをしない手施
- 人のために労を惜しまない足施
- やさしい心を口に持つていく愛語施
- 人の言葉に耳を傾ける耳施
- 奉仕の心、立ち居振る舞いの身施
- 心に心を施す心施

この事は、最初は型から入り、機会あるごとに人に話し、俺つてこんな人間だつたのかと勘違いし、その繰り返して徐々に自分のものとなり、自分の生き様になる。剣道の極意、守、破、離だと思ふ。

私の理想とする生き方は、子曰く、70才になつたら心の欲するままに行動しても、社会のルールから逸脱しないという生き方です。今、心の欲するままに従えば、大変な事になる。死ぬまで修行と思つています。

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	金 額	備 考	科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	106,964	74 人 × 3,000 円 含受取補助金	イベント経費	108,551	北部支部 はがき・切手等 隣接支部祝金等
21 年度会費	222,000		本部拠出金	30,000	
広告料収入	20,000		会報作成費	57,206	
イベント剰余金	129,710		通信費	34,510	
他支部祝金等	60,000		郵便振込手数料	8,360	
受取り利息	32		渉外費	60,000	
寄付金	30,000		その他経費	12,991	
			次年度繰越金	257,088	
計	568,706		計	568,706	



11月26日(土)日本一前夜

校友会柳田氏が代表理事であるNPO法人としまNPO推進協議会主催の「社会貢献ビジネスフォーラム」の懇親会会場で柳田氏から彼の携帯電話を渡されたのが日本一という歴史的な出来事の始まり。

電話の相手は、校友会島倉氏で、ご存知の通り、彼は「明治大学野球部を愛する会」会長。開口一番、「先輩、日本一のチャンスですので、明日、とにかく神宮球場正門前に来てください。」との熱い誘いを受け

て、訳が分からないままに、二つ返事でOK。

明大野球部が六大学秋季リーグで優勝したことは当然知っていましたが、しかし日本一と言われても実はピンときませんでした。

11月27日(日)日本一当日

島倉親子と共に神宮球場に入る。母校の応援は何と40年以上振りとなる。所定の一塁外野側の応援席に陣取る。大学野球の熱烈なファンで満席状態、応援用の制服制帽姿のOBも含め試合開始が待てず既に舌戦をスタート。

バックスクリーンには、「明治神宮外苑創建85年記念第42回明治神宮野球大会決勝戦」の文字。

決勝戦の対戦相手は、愛知学院大。午後

1時46分、「白雲なびく駿河台・・・」の校歌と共にプレーボール。

明大の先発投手は、先日、広島ドラフト1位指名を受けたエース野村君。前半の5回までは、愛知学院大投手永岡君の好投もあり、緊迫した投手戦で両者無得点。

気分転換を兼ねて球場売店で熱燗の日本酒で暖をとり始め

た6回、阿部君が均衡を破る先制打を放ち1点先取。慌てて、残りの日本酒を二気飲みして応援席に戻り、応援歌の合唱に加わる。第一応援歌「紫紺の歌」から始まり「血潮は燃えて」、「紫紺の旗の下に」と怒涛のメドレーで応援のボルテージは最高潮に達する。40年以上振りの応援でしたが、自然と歌詞が出てくることには自分ながら驚きました。

その後、明大の気迫に負け、愛知学院大は投手交代を小刻みに継続するも、8回、中嶋君がダメ押しの追加点をたたき出し、2対0となる。

公式戦最後のマウンドを託された野村君の右腕が冴え、大学では自身初の2戦連続先発ではあったが、終わってみれば、散発4安打の無四球完封、残塁ゼロで打者27人をわずか91球で抑え有終の美を飾る。圧巻は、最大のピンチとなった7回1死三塁の場面で、相手のスクイズを察知してプロ並みの技術で抑える。

今回の優勝は、1996年以来、15年振りとなる秋の大学日本一に輝き、5度目の優勝は単独大会最多を記録。明大創立130周年に合わせたかのように日本一の大輪の花を咲かせた我が野球部。

すっかり日が落ちてしまった神宮球場に伝統の応援歌「神宮勝歌」を全員合唱で締めくくりとなる。

お陰さまで、歴史的な瞬間に立ち会うことができました。島倉会長、ありがとうございました。